

廿日市市景況調査報告

(2022年10～12月)

～業況DIは、コスト上昇に感染拡大が重なり、悪化。
先行きは、物価高や外需停滞の懸念から厳しい見方～

1. 全体の概要

業種別景況 概要	前年同期	10～12月と先行き見通し									
	全産業	全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	10～12月	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲14.3	5.6	▲16.7	44.4	▲33.3	50.0	25.0	▲20.0	▲50.0	▲15.4	7.7
仕入価格	66.7	88.2	64.7	100.0	55.6	100.0	75.0	100.0	90.0	63.6	45.5
採算	22.9	30.6	5.6	33.3	22.2	50.0	25.0	20.0	▲30.0	30.8	15.4
雇用人員	▲26.5	▲48.6	▲45.7	▲33.3	▲44.4	▲50.0	▲25.0	▲50.0	▲60.0	▲58.3	▲41.7
業況	▲14.3	2.8	▲16.7	11.1	▲11.1	25.0	25.0	0.0	▲60.0	▲7.7	0.0
前回調査	▲2.5	▲7.5	▲13.2	7.7	9.1	20.0	▲20.0	▲22.2	▲33.3	▲23.1	▲15.4

(対象 64社 回答 36社)

【全国の景況】

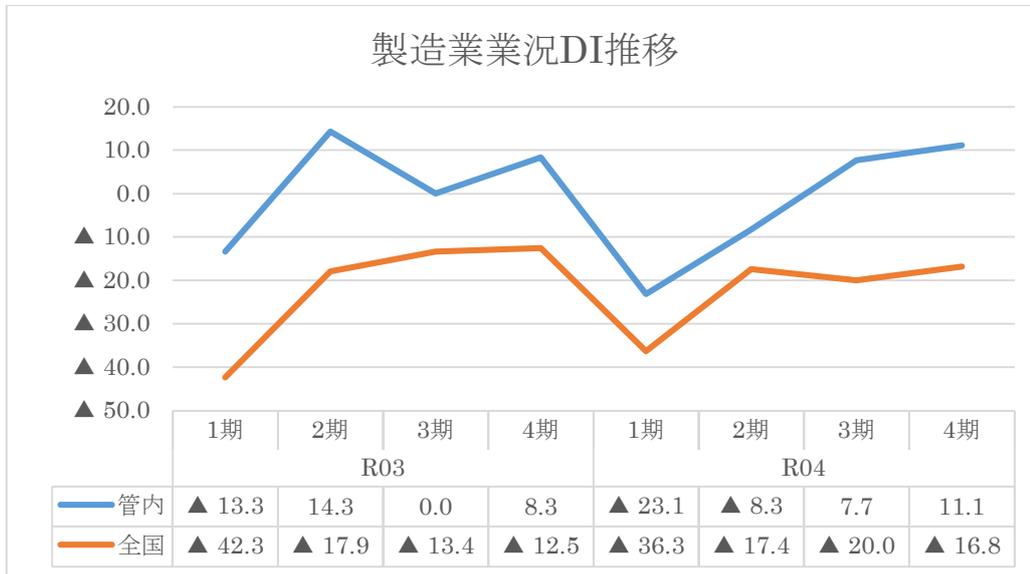
全産業合計の業況DIは、▲18.4（前月比▲2.0ポイント）。製造業では、部品等の供給制約の一部緩和に加え、企業の堅調な設備投資需要に牽引され、業況が改善した。また、卸売業でも製造業向けの原材料・部品等の引き合いが増加し、改善した。一方、建設業では資材・燃料価格の高騰に加え、人手不足による受注機会の損失で業況が悪化した。また、小売業・サービス業では、物価高に感染拡大が重なり、消費マインドが一段と低下し、業況が悪化した。経済活動が正常化に向かう一方、原材料・エネルギー価格の高騰や人件費の増加等、コスト負担増は継続している。増加するコストに見合う十分な価格転嫁も行えていない中、感染拡大も重なり、中小企業の業況は悪化に転じた。

【廿日市市の景況】

全産業合計の業況DIは2.8ポイントと前回調査（7～9月）からプラスに転じた。産業別では、製造業が前回値（7.7）から今回値（11.1）、建設業が前回値（20.0）から今回値（25.0）、卸小売業が前回値（▲22.2）から今回値（0.0）、飲食・サービス業が前回値（▲23.1）から今回値（▲7.7）と改善した。需要の回復や年末商戦による個人消費拡大の期待感から、売上高が増加しDI値は改善したものの、エネルギー価格高騰によるコスト負担増や人手不足に苦しむ企業が多数見受けられた。また先行き見通しからも、総合判断を「横ばい」または「悪化」を選択する企業が多く、中小企業の先行きは依然として厳しい見方となっている。

2. 業種別推移

【製造業】



第1表 業種別生産指数（付加価値額ウェイト）

年・期・月	鉱工業	製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	一般機械工業(総合)	はん用機械工業	生産用機械工業	業務用機械工業	電気機械工業(総合)	電気・情報通信機械工業	電子部品・デバイス工業	輸送機械工業	窯業・土石製品工業
ウェイト	10000.0	9998.1	600.3	148.8	276.0	1605.0	417.4	1069.0	118.6	1372.0	280.9	1091.1	3327.2	202.0
r 10月	103.2	103.2	82.1	74.3	74.1	119.0	114.8	125.6	100.6	165.4	91.9	184.0	88.0	81.3
r 11月	99.2	99.2	82.0	69.5	75.3	139.5	147.8	131.7	104.8	155.3	87.1	174.5	75.9	82.6
r 12月	96.9	97.3	78.5	68.1	79.4	120.6	122.5	126.3	98.4	155.6	86.0	174.0	77.0	80.3

注 rは確報値、pは速報値

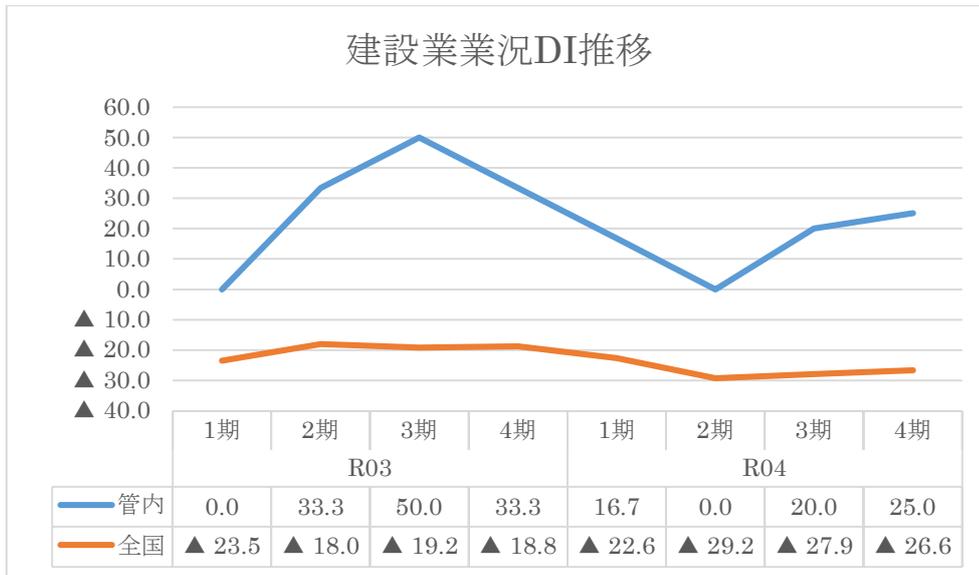
化学工業	プラスチック製品工業	パルプ・紙・紙加工工業	繊維工業	食料品・たばこ工業	木材・木製品工業	ゴム製品工業	その他工業	家具工業	その他製品工業	鉱業	公益事業	産業総合	機械工業	自動車部門	造船部門
302.5	504.9	82.9	173.3	813.8	161.5	142.7	285.2	61.9	223.3	1.9	148.7	10148.7	6304.2	2605.0	761.3
95.0	101.4	102.8	90.4	76.1	91.9	93.2	81.7	72.0	85.0	86.8	114.3	103.1	112.3	97.6	50.6
92.7	98.2	98.7	95.6	73.9	107.5	90.1	81.6	71.6	84.2	90.2	101.2	98.8	106.0	80.2	46.0
94.3	91.5	85.3	88.0	74.1	107.8	88.9	88.1	75.2	91.0	83.6	92.9	96.5	103.4	79.3	52.8

《広島県鉱工業活動動向 業種別生産指数（季節調整済）》※広島県ホームページより

管内における業況は前期の7.7から11.1へ改善、全国値も同様に前期の▲20.0から▲16.8と改善となった。

また先行指数である業種別生産指数においては、鉱工業全体では若干の減少傾向がみられ、今後の見通しに不安を感じさせるものとなっている。

【建設業】



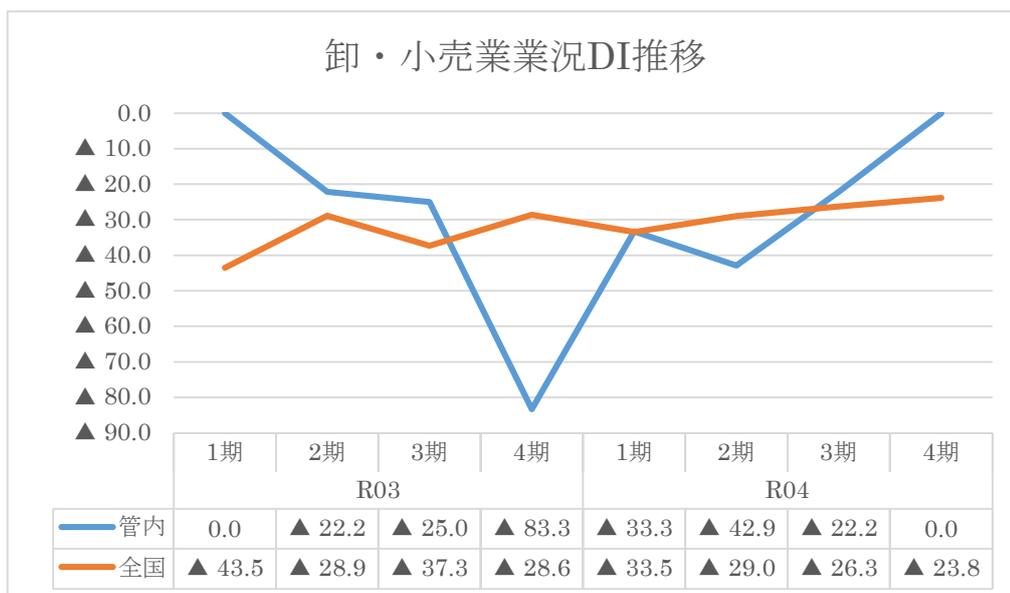
広島県 新設住宅着工戸数 (速報値) (令和4年12月分)											広島県土木建築局建築課			
											作成日 令和5年1月31日			
	合計	持家	貸家	給与	分譲	戸建	長屋建	共同建	木造	SRC	R C	鉄骨造	C B	その他
県計	1,115	392	360	0	363	677	96	342	774	0	139	202	0	0
廿日市市	76	41	0	0	35	76	0	0	68	0	0	8	0	0

広島県 新設住宅着工戸数対前年比較表 (令和4年12月分)										
(単位: 戸, %)										
	合計	対前年比	持家	対前年比	貸家	対前年比	給与	対前年比	分譲	対前年比
県計	1,115	-38.7	392	-14.6	360	-50.3	0	-	363	-41.2
廿日市市	76	11.8	41	46.4	0	-	0	-	35	169.2

管内の建設業の業況DIは前期の20.0から25.0で2期連続の改善となった。一方で全国値においては前期の▲27.9から▲26.6とほぼ横ばい傾向である。

先行指数である新設住宅着工件数をみると、県全体では対前年を下回っているもの、廿日市としては対前年を上回っており、DI改善の裏付けとなっていると思われる。

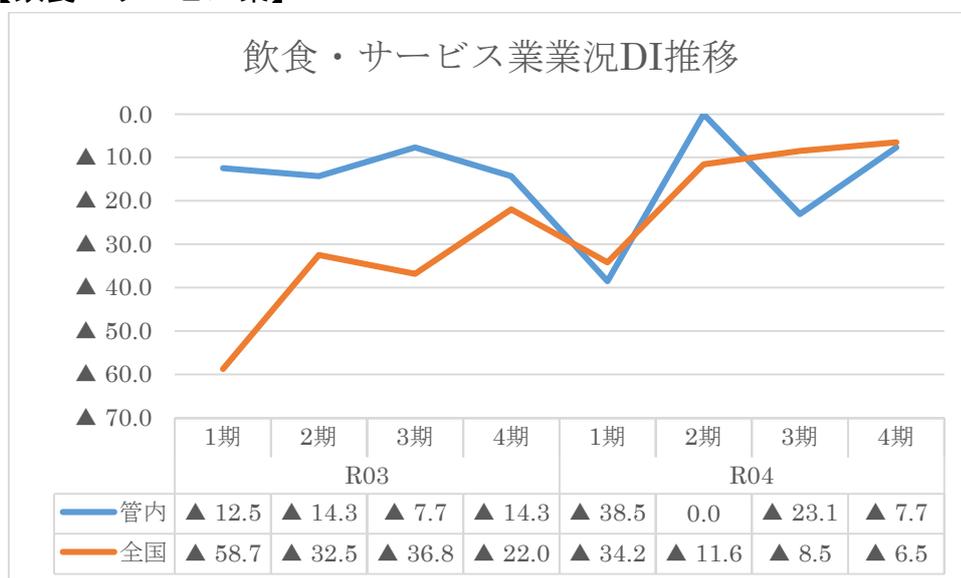
【卸・小売業】



管内の業況は引き続き前期の▲22.2から0と改善が見られた。また、全国値も前期の▲26.3から▲23.8と若干の改善ではあるものの、依然として厳しい業況が伺える。

今期においてもDI値としてはマイナス傾向が続き、先行きが見えない状況にある。

【飲食・サービス業】



管内の業況は、前期▲23.1から▲7.7へと改善、全国値も▲8.5から▲6.5とほぼ横ばい状態である。

新型コロナウイルスの影響も落ち着いてきているものの、依然として飲食業を中心としたサービス業においては厳しい状況が継続している。

3. 今月のトピック

(1) 2022年ヒット商品番付

消費、流通マーケティングの専門誌「日経MJ」が2022年 ヒット商品番付を発表した。

番付	東		番付	西	
	商品名	寸評		商品名	寸評
横綱	コスパ&タイパ	値上げが広がる中、費用対効果の高い商品に支持。節電効果が期待できるパーソナル冷暖房や大容量品が人気。動画の倍速視聴など時間対効果を追う動きも	横綱	# 3年ぶり	コロナ禍で中止されたイベントが3年ぶりに再開。夏祭りの経済効果は4000億円との試算も。旅行支援策やインバウンドの水際対策緩和で旅行需要に回復の兆し
大関	サッカーW杯日本代表	強豪ドイツとスペインを破ってグループ首位通過。アベマが全試合を無料配信し、スマホなど視聴方法が多様に	大関	ヤクルト本社「ヤクルト1000/Y1000」	宅配用ヤクルト1000の販売本数は1日約181万本(4~9月)で前年同期比6割増。千葉に工場新設を決定
関脇	ポケットモンスター スカーレット・バイオレット	発売後3日間の世界累計販売が1000万本超と任天堂のソフトで過去最高。同社では「スプラトゥーン3」もヒット	関脇	ジブリパーク	スタジオジブリのアニメの風景を再現したテーマパーク。11月に先行開業した3区画のチケットは来年1月分まで完売
小结	ワンピース フィルム レッド	歌姫「ウタ」を巡るストーリー。興行収入は180億円を超え、国内の歴代9位に。Adoが歌うシーンも話題	小结	トップガン マーヴェリック	洋画として3年ぶりに国内興収100億円超え。何度も見に行く「追いトップガン」や前作との「2作連続上映」も話題に
前頭	ガチャ旅	ランダムに旅先が決まる鉄道や航空券。安心感とワクワク感で話題。JR西日本の「サイコロきっぷ」は約28万人が購入	前頭	ちいかわ	ツイッター漫画発のキャラクター。企業とコラボを重ね、グッズも大人気に。市場規模は推計100億円超

【東】

① コスパ&タイパ

22年はコストパフォーマンスならぬタイムパフォーマンス(タイパ)が消費のキーワードになっている。Z世代の7割が動画を早送りで見ているという調査結果もあり、コストパフォーマンスだけでなく、時間帯効果を追い求めている。

②サッカーW杯日本代表

強豪のドイツとスペインを破ってのグループ首位通過となった。

アベマが全試合を無料配信したことで、視聴方法が従来のテレビだけでなく、スマホやタブレットなど多様なものとなった。

③ポケットモンスタースカーレット・バイオレット

発売後3日間の世界累計販売数が1,000万本超と、過去最高の売上高を記録した。

【西】

①#3年ぶり

西の横綱に選ばれたのは「#3年ぶり」である。

コロナで中止やオンライン開催だったイベントなどが3年ぶりに次々復活。入国制限の緩和で外国人の姿も戻り始めた。

②ヤクルト本社「ヤクルト1000/Y1000」

宅配用のヤクルト1000の販売本数は1日に約181万本（4～9月）で前年の6割増となっている。

③ジブリパーク

スタジオジブリのアニメの風景を再現したテーマパークである。11月に先行開業した3区画のチケットは2024年1月まで完売となった